

【上川北部森林管理署】

木造建築・我が署紹介！



新築当時の現庁舎

す。

南東部には優れた山岳景観を有する天塩岳道立自然公園などの自然や観光資源に恵まれた地域もありアウトドアスポーツなどの参加・体験型観光が盛んな地域です。

【庁舎の変遷】

旧庁舎は、昭和12年1月に御料林局札幌支局名寄出張所から分割し、下川出張所として開庁されました。

狭く老朽化が進んでいたため昭和63年の一ノ橋営林署の統合の際に、地元下川町からも庁舎改築の強い要望もあり、現在の庁舎が建築されました。

【現庁舎の概要】

現在の庁舎は、昭和63年12月に竣工し、今年で34年が経過しています。

木造2階建てで総面積は、700㎡で、当時としては、建物の内部、外部とも許される範囲で最大限木材を使用し、また、木材の良さを効果的に出すために、他の材料も使用して調和させたそうです。特に二階の事務室の空間は、梁10・8mの空間を洋小屋組み（合掌組）により実現し、天井の一部を吹き抜けとして木造のトラスを力強く見せています。

事務室の機能を重視したことで総二階建てになりましたが、単調になりがちな外観を、屋根は寄せ棟、ポーチを本屋から突出させたほか、木製サッシの使用などで変化を持たせています。内部にはトドマツ、カラマツ、シウリザクラの羽目板、ナラの集成材などを使用し木の香りとぬくもりや木の肌触りが実感できるよう配慮されています。

また、新庁舎の落成に合わせて新庁舎の国道沿い入口に「下川営林署」と記したジャンボ看板が製作されました。看板は直径70cm、高さ5mのトドマツ二本

を組み合わせた柱に、幅1・2m、長さ5・4mの横看板が取り付けられました。職員たちによる手作りで、一つの文字の大きさは80cmで、「営林署の看板としては日本一」の折り紙付きでした。道行く人には一目でわかる」と好評でしたが、残念ながら経年劣化により、今は撤去されています。



職員手作りのジャンボ看板

【ビスタースポット】

現在、庁舎では、玄関入口に「ビスタースポット」をオープンし、上川北部森林管理署の紹介をしたパネル、水中から見た川の中や空から見た様々な工事の様

子を映像化したディスプレイムービー、手に触れることができる木製品、樹木の種当てクイズ、年輪カウントチャレンジや間伐材が利用された住宅用構造材などを展示し、どなたにも見てもらえるようにしています。

また、木質ベレットストーブも設置して冬期は暖房として利用しており、これまでに来署された方には大変好評です。皆様の来署をお待ちしています。



庁舎内玄関の「ビスタースポット」

最後に、これからも地元貢献できる森林管理署として、PRを進めながら理解を得られるよう取り組んでいきます。